

平成30年度
計画訪問
事前研①

生活科・総合的な学習の時間

学習指導案

秋田県教育庁南教育事務所

指導主事 先生

秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所

指導主事 先生

仙北市教育委員会北浦教育文化研究所

指導主事 則先生 指導主事 先生

秋田大学北秋田分校

校長 先生 をお迎えして

夢に向かって
やさしく
かっこよく
たくましく

学校教育目標

【研究主題】

自ら課題をもち、進んで学ぼうとする子どもの育成
～関わり合いながら、学びを深めていく指導を通して～



2年生～1年生と学校探検～



4年生～駅前フィールドワーク～



6年生～下級生にクラブプレゼン～



平成30年6月15日(金)
仙北市立生保内小学校

【日 程】

時 間	活 動
9:00 ~ 9:20	学校経営説明 (校長室)
9:30 ~ 10:15 【2校時】	生活科 研究授業 (2年梅組) 総合的な学習の時間 研究授業 (4年梅組)
10:35 ~ 11:20 【3校時】	総合的な学習の時間 研究授業 (6年生合同)
14:45 ~ 16:45	研究協議会 (校長室・図書室)

【研究授業一覧】

学年・組	単 元 名	授業者	場 所
生 活 2年梅組	おぼないのまちへ とびだそう!		2梅教室 生活科室
總 合 4年梅組	ふるさとの今を見つめて ～発信しよう!ふるさとのよいところ～		4梅教室 いぬわしルーム
總 合 6 年	ふるさと再発見 パートI		体育館

【研究協議会次第】

☆14:45～

1 はじめの会 (10分) *校長室

①校長あいさつ ②職員自己紹介 ③指導主事の先生・濱田先生の紹介

~~~~~ (移動・準備) ~~~~~

☆14:55～

### 2 教科別協議会 (70分)

・「生活科」…校長室(司会; 記録; )

・「総合的な学習の時間」…図書室(司会; 記録; )

①授業者から

②質疑応答

③グループ別協議

④協議報告 \*総合的な学習の時間の部会のみ

⑤指導主事の先生の指導・助言

~~~~~ (移動・準備) ~~~~~

☆16:15～

3 終わりの会 (30分) *校長室に集合

①教科別協議報告 ② 先生のお話 ③ 先生のお話 ④校長あいさつ

【生活科】 研究主題と今年度の重点

思いや願いをもって「ひと・もの・こと」と関わり、 気付きの質を高め表現する子どもの育成 ～地域とつながる生活科の授業を通して～

- (1)学校教育全体において
「学びを深めていく指導」の一つである「表現力」及び「思考力」の向上を目指していく。児童の実態をはじめ、教科の特性や学習内容、ねらい等に合わせて、教科指導だけでなく教育活動全体において、その実践とその記録を積み重ねていく。
- (2)年間指導計画の見直し
2学年間を視野に入れた計画である1年間の学習を通して、どのような資質・能力を育成するために、どのような対象と出会わせ、どのような活動や体験をし、どのような表現活動を行うかなど、子どもの具体的な姿を明確にしなが、計画を立てていく。
- (3)日常の授業づくり
 - ア) 気付きを確かなものにしたり、関連付けたりすることができるような工夫
活動の楽しさを味わい、それを通して得られた気付きを多様な方法で表現するとともに、板書の構造化や思考ツールの活用等を通して、気付きを関連付けながら考え、自分への気付きにしていけるようにしていく。
 - イ) 見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動の設定
対象と関わる中で得られた気付きを、比較・分類・関連付けなどや他者との関わり合いなどを通して考えることができるように、日常の様々な活動や体験を通じた言語活動場面において、繰り返し指導を重ねていく。
- (4)地域の学習材の開発と活用、子どもの学習活動を支える組織（「生小応援団」）との連携
地域の学習材を記録した「学習マップ」の活用と更新、生小応援団と共通理解を深め、連携した活動の展開を進めていく。
- (5)認定こども園（「だしのご園」）との連携
昨年度に構築した連携の継続と、双方の教職員全体がより参画していくことができるように体制の見直しを図っていく。
- (6)その他
 - ・新学習指導要領に合わせた単元の目標や評価規準の設定の仕方等、指導案の形式の見直し
 - ・公開授業研究会の実施 ・外部講師の活用、招聘 ・仙教研（生活科部会）との連携
 - ・研究の検証方法 等

【総合的な学習の時間】 テーマ・目標

「ふるさとのよさがわかり、ふるさとが大好きな子ども」

- ～ふるさと学習を中核に位置づけ、4年間を見通したふるさとにかかわる課題を学習する～
探究的な見方・考え方を働かせ、地域の「ひと・もの・こと」に関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を以下のとおり育成することを目指す。
- (1)地域の「ひと・もの・こと」に関する探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域の特徴やよさに気付き、それらが様々な人々の努力や工夫、願いによって支えられていることに気付く。
 - (2)地域の「ひと・もの・こと」に関する中から課題を見付け、情報を集め、整理・分析して、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付ける。
 - (3)地域の「ひと・もの・こと」との関わりを通して、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの思いや願いを生かしなが、地域に対する誇りと愛情を高め、積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。

【質問事項】

・生活科

- ・日頃の授業の中で、個の様々な気づきをいかに的確に拾い上げるための手立てやポイントには、どんなことがあるのか。
- ・特に、2年生において、中学年以降の他教科の学習への円滑な接続が示されているが、具体的にはどの程度まで行ったらよいのか。また、留意点としてどんなことがあるのか。

・総合的な学習の時間

- ・探究課題や育成を目指す資質・能力については各学年の発達段階を踏まえて設定しているが、資質・能力について前学年でどの程度まで身に付いているのかをどう引継ぎ、年間を通して具体的にどのように育てていけばよいのか。
- ・単元を通して、思考力・判断力・表現力等の深まりを見取るための手立てやポイントには、どんなことがあるのか。

・生活科と総合的な学習の時間とも共通事項

- ・生活科の研究指定校として2年目を迎え、生活科また総合的な学習の時間の研究推進に当たっての今後のポイントや留意点
 - ① 日々の授業において
 - ② 指導計画の立案・単元構成等カリキュラムマネジメントに関して
 - ③ その他
 - * 研究推進全般に関わることなど

*こちらについては、全体で共通理解を図りたいと思いますので、終わりの会の際にお話をいただくと幸いです。



2 校 時

第2学年 生活科学習指導案

指導者

1 単元名

おぼないのまちへ とびだそう！

2 単元の目標

地域を探検し、様々な人や場所と関わることを通して、地域で生活している人々や様々な場所との関わりについて考えることができるとともに、自分たちの生活は、地域の人々や場所と関わりをもっていることや地域のよさに気づき、親しみや愛着をもって人々に接したり、自分の生活を広げようとしたりすることができるようにする。

3 単元を展開するに当たって

(1) 子どもについて(男子10名・女子12名、計22名)

支援を必要とする子どもが2人いるが、明るく素直で、どのような活動にも一生懸命に取り組もうとする子どもたちである。また、人と関わる活動を好み、特に喜ばせたり、サプライズを仕掛けたりすることが大好きである。

生活科の学習にとっても意欲的で、これまでも探検したり発見したりすることや、育てたり観察したりすることなどを楽しんで取り組んできた。

4月には「1年生を学校あんないしよう」という活動において、自分が教えてあげたい場所を出し合ったり、場所の紹介文を書いたりして、グループに分かれ1年生を案内した。「1年生に教えてあげる」ということで、昨年度とは異なり、相手や目的を意識しながら、準備や本番に臨むことができた。本番では1年生も、場所だけではなく、そこにいる先生やお兄さん、お姉さんたちの優しさにもふれることができ、2年生の子どもたちもとても満足している様子が見られた。そうした経験から、さらに、先生方のことも覚えてもらいたいという願いをもち、ペアで協力しながら休み時間を使って先生方の顔をタブレットで撮影して回り、写真に名前を書き、1年生の生活科室前の廊下へ掲示した。

本校の子どもたちの通学区域はとても広範囲で、また位置的にも偏りがあるため、自分の家の周りや通学路の途中の様子はおおよそ知っているが、それ以外の区域については、ほとんど知識がないようである。さらに、自家用車による移動が多いため、風景やよく行く建物は目に入っているが、それ以外のものについては、どんな人たちがいて、どんなことをしているかまでは知らないことが多いと思われる。そこで、通学区域も含めて、「おぼないのまち」についてアンケートを実施した。

①「おぼないのまちには、どんな店やたてものがありますか？」

- ・自分が家の人とよく利用する大型店。また、自分の家の近くの商店。
*だしのこ園、中学校、図書館、駅などの公共施設。学校近くのガソリンスタンドなど。
たざわ湖スキー場、思い出の潟分校、田沢湖などの観光施設など。

②「好きな場所はどこですか？」

- ・商店や商業施設・豆腐屋さん、酒のだるまや、坂本電気、ビッグフレック、タカヤナギ田沢モータース、ガソリンスタンド、松田クリーニング など
- ・その他の施設・たざわ湖スキー場、潟分校、かえる公園、地域の会館、だしのこ園 など

③「おぼないのどんなところが好きですか？」

- ・自然にあふれている。(田沢湖がきれい。虫がいっぱいいる。駒ヶ岳。)
- ・食べ物がおいしい(お寿司屋さん。ピザ屋さん。)
- ・お店が多い。
- ・みんながあいさつしてくれたり、声をかけてくれたりする。
- ・優しい人が多い。
- ・公園に行くと友達がいる。

(2) 単元について

本単元は、生活科の内容(3)「地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。」と、(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」を受けて設定したものである。

アンケートの結果や日常の様子から、子どもたちは、小さいころから家の人と買い物に出かけたり、近所の人とあいさつを交わしたりして育ってきていることが分かる。また、園の行事等で友達の家族と仲良くなったり、街頭指導で地域の方に見守られたりしながら、地域ぐるみで大切に育てられていることが分かる。このことは、人と関わるのが大好きな子どもたちを育てる土台になっているといえる。

一方で、学級の中には、相手や場の状況を考えずに行動してしまい危険が伴ったり、言葉や説明が足りないために、小さな衝突が生じたりすることもあり、今回の地域探検は、マナーや安全を学ぶ大事な学習にもなる。

さらに、後期の「もっとなかよしまちたんけん」につながる単元でもあり、またその土台となる学習である。秋の探検まで時間は空くが、今回作成する地図上に、自分が見付けたことや気付いたことを随時付け足していく。また、夏休みには、地域の行事に積極的に参加したり、家族と一緒に自分のお気に入りの場所を訪れたりすることで、時間の経過とともに思いを膨らませることができる。

(3) 指導に当たって

① 思いや願いをもって「ひと・もの・こと」と関わるために

- ・一人一人の思いやこだわりを大切にするために、子どもが時間をかけてふれ合おうとするものが、教師側の押し付けにならないように、まち全体を広く簡単に調べる散歩のような探検を単元の導入時に行う。
- ・探検中の記録は、簡単なメモ程度にし、探検後、そのメモを見ながら文章に書き表したり、友達に伝えたりするようにする。

② 気付きの質を高め、表現するために

- ・導入は、身近な地域に目を向けさせるために、通学路や家の周りの「ひと・もの・こと」の中で、自分の好きなものを自由に紙に書き出して無意識だったことを表出させるようにする。
- ・さらに実際に全員で「おさんぼたんけん」に出かけ、表出させたものを改めてじっくり見ることで、疑問や発見など新たな気付きが生まれるようにする。
- ・また、「おさんぼたんけん」を通して生まれたそれらの気付きを交流し合うことで、自分の住むまちには素晴らしいものがたくさんあることに気付き、「他にも調べてみたい」「もっと詳しく調べてみたい」という意欲を高める。そして、目的をもった次の探検につなげ、「ひと・もの・こと」との関わりから、地域には「いろいろな人がいること」や「場所と人の関係」、「場所と場所の関係」にも気付くことができるようにする。
- ・探検後には、「話すこと」や「書くこと」で、探検の様子をふり返り、気付いたことがさらに深められるようにする。

生活上の必要な習慣においては、子どもたちの実態を踏まえると、気持ちが高揚してくると注意が散漫になり、けがをしたり、活動の終了時刻を守ることができなかつたりする場面が想定される。そのため、「安全の意識を高める」「施設や公共の場所でのルールやマナーを守る」「時間を守る」ことが特に重要であり、継続的な指導も必要とされる。

また、人と関わるのが大好きな子どもたちではあるが、ペアやグループでの活動においては自分の思いをうまく伝えたり、活動を進める際には折り合いを付けたりするということが未熟なため、活動や体験を重ねながら人との関わり方についても学ぶことができるよい機会にしていきたい。

さらに、活動が進むにつれて、地域の「ひと」にも興味や関心が向くと予想されるので、後期

の「もっと なかよし まちたんけん」では、「人となかよくなる」とはどういうことなのかを考えることで、自分への気づきにもつなげ、自己有用感を高められるような学習にもしていきたいと考える。

☆本単元がつながる中学年以降の子どもの姿

本単元の学習は、「身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動と消費生活の様子など」を人々の生活との関連を踏まえて理解するという第3学年の社会科の目標を達成するための資質や能力の育成につながり、調査活動や地図づくりにも反映されると思われる。さらに、社会的事象について主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことにもつながると考えられる。

また、探検の際、見つけた植物を「かわいい。」「何という名前の花だろう。」「この前までは咲いてなかった。」などの気づきを通して、自然に親しむという理科の学習にもつながるとともに、思考力・判断力・表現力の基礎を身に付けるという点では、科学的思考力・表現力を高めるためのキーワードである「比較する」「関係付ける」などにもつながっていくと考えられる。

4 単元構想図

・秋のたんけんでは、〇〇さんのことを知って、もっとなかよくなりたいな。
 ・おほないのまちのことをもっとくわしく知りたいな。

思い 願 い ③

〇〇さんにもっとしつもんしてみたいな。

もうちょっとくわしくおみせのおしごとをしりたいな。

体 験 ②

たんけんに行こう
 ・探検に出かけ、いろいろな「ひと・もの・こと」を見付ける。

ここに、こんな花がさいてたんだ。

やっぱり、この花が1ばんきれいだな。

こんにちは。これはどんなふうを作るんですか。

〇〇のお店の人と話したよ。

おしごとをされていて、たいへんなことはなんですか。

表 現 ①

おほないのまちにはこんなところがあったんだね。

思 い 願 い ①

おほないにはどんなところがあるのだろう。行ってみたいな。

「もっとなかよしまちたんけん」に続く。

表 現 ③

まちのことをおしえあおう
 ・探検を通して、みんなに伝えたいことを表現する。

〇〇のおみせは、たいへんなところはここです。たいへんなおしごとだとおもいました。

〇〇のおみせのすごいところは、ここです。

〇〇さんの言っていた通り、〇〇には〇〇があっぴょくりしたよ。

思 い 願 い ②

わたしは、また同じところに行って〇〇をくわしく見てみたいな。

〇〇さんが行ったところにわたしも行ってみみたいな。

〇〇さんが話したこと、はじめてわかった。

表 現 ②

〇〇さんが話したこと、ほくも知ってたよ。

体 験 ①

おほないって どんなまち？
 ・生保内のまちに関心をもち、いろいろなことを知りたいという気持ちをもつ。

・まちで知っている場所や、行ったことのある場所は〇〇だよ。
 ・ほいく園のみんなやお家の人と、〇〇に行って、～したことがあるよ。

6 本時の実際 (9/9)

(1) ねらい

「たんけんレポート」を発表し合うことで、地域にはいろいろな人々が生活したり、働いたりしていることが分かり、地域のよさに気付いている。

(2) 学習の実際

| 学 習 活 動 | 予想される
子どもの姿 | 形
態 | ○教師の支援
●つまづいている子への手立て
☆評価(方法)【観点】 |
|--|---|-----------|--|
| 1 学習課題と学習の流れを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・たんけんは楽しかったな。 ・ともだちに聞いてもらいたいことがあるんだ。 | 全体 | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題を意識付けるため、写真などを提示し、探検の際の思いを引き出すようにする。 |
| <p>(めあて)
たんけんレポートをはっぴょうしあって、おぼないの「いいね!」をみつけよう。</p> | | | |
| 2 床地図を開んで、自分の伝えたいことを話したり、友達の話の話を聞いたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなケーキがあったから、みんなに教えたい。 ・おいしそうなおいをどんなふうにつたえようかな。 ・大きなきかいがあつてびっくりしたから、みんなもびっくりさせよう。 | 全体またはグループ | <ul style="list-style-type: none"> ○発表が終わってから付け足しや感想を言うことを事前に確認する。 ○発表については、子どもたちのやりとりを見ながら、必要に応じて軌道修正やアドバイスをする。 ●アドバイスのヒントとなるように、探検時に引率の方に書いていただいたメモを準備しておく。 |
| 3 発表への付け足しや質問をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの○○の店のおすすめは○○です。 ・わたしもよく買いに行くよ。 ・○○のおばさんは、とてもやさしくてよく声をかけてくれるよ。 | 全体 | <ul style="list-style-type: none"> ○これまでのアンケートや探検カード、探検レポートの中から、自分とその場所との関わりを書いている子どもを予め把握しておき、発表を促す。 ○他の場所を探検した子どもから、気付いたことや感想を聞くことで、これからの学習にもつながるようにする。 |
| 4 学習シートに生保内のよいところを書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生保内のまちはおいしいものがあるな。 ・お店の人はやさしいなあ。 ・たくさんものがかうっていてべりだな。 ・おしごとたいへんそうなのに、げん気だなあ。 | 個 | <ul style="list-style-type: none"> ●どこのレポートが心に残っているかを尋ね、その中に「いいね!」と思ったところがないか、または、自分の探検場所で「いいね!」と感じたことを確かめる。 <p>☆交流を通して、地域のよさやそれらを支えている人がいることに気付いている。</p> <p style="text-align: right;">【知識及び技能の基礎】
(学習シート)</p> |
| 5 2回の探検の感想を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・もう一ど、お店に行っておばさんに会いたいな。 ・おしごとの中みをくわしく聞いてみたいな。 ・こんどは、家の人と行ってみたいな。 | 全体 | <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの感想の中から、願いや思いを取り上げ、これからの探検につながるようにする。 |

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者

1 単元名

ふるさとの今を見つめて ～発信しよう！ふるさとのよいところ～

2 単元の目標

地域での調査活動等や、他者と関わりながら調べたりまとめたりする活動を通して、仙北市の新たなよさについて考え、それらを表現・発信ができるとともに、ふるさとに対する誇りと愛情を高め、地域を盛り上げようとする態度を育てる。

3 単元を展開するにあたって

(1) 子どもについて（男子22名・女子14名、計36名）

明るく活動的で、学校生活における様々な活動に関心をもち、張り切って取り組もうとする子どもたちである。素直に自分の思いを話したり、関わろうとしたりする子どもが多い反面、自分の考えにこだわったり、互いの考えをよく理解できなかつたりする場合もある。総合的な学習の時間は、特別支援学級の子ども2名も支援を受けながら一緒に学習している。

3年生の「すてき発見 田沢湖パート1」では、自分たちが住んでいる田沢湖地区について調べてきた。中学年の子どもたちは、まだ自分で行動できる範囲が狭いこともあり、仙北市のどこまでが田沢湖地区なのか分からず、地元の祭りや施設、特産物についての知識に関しても個人差が大きかった。そこで、社会科の市の様子学習で、市内の3つの地区の地形やまちの特徴の違いを比較しながらフィールドワークをした後、地元である田沢湖地区の「すてき」に絞って調べ学習をした。

「すてき発見 田沢湖パート2」では、子どもたちに親しみのある仙北市の田沢湖高原温泉郷のキャラクター「オモテナシ3兄弟」との出会いを設定した。パート1で調べた鶴の湯温泉、山菜、田沢湖・クニマス、イヌワシ等について調べるため、教育活動支援団体（「生小応援団」）の協力を得ながら、路線バス等を利用した子どもたち主体のフィールドワークを行い、自分の見つけた「すてき」について、「オモテナシ3兄弟」を呼び報告会をした。各グループごとに期待感をもってふるさとを訪問し地元のよさを大事にしている人々とふれ合うことによって、さらに地元で親しみをもったり誇りを感じるたりする姿が見られた。

まとめの段階での子どもたちは、パンフレット、図鑑、模型、案内地図など、自分が経験したことのある表現方法から選びがちだった。また、自分の思いを膨らませて生き生きと伝えようとするが、これまでは伝える相手が家族やオモテナシ3兄弟と相手が絞られていたため、相手や目的に応じて表現方法を工夫する力もやや不十分であった。

(2) 単元について

本単元は、3年生で学習した知識と田沢湖地区への誇りを大事にしつつ、仙北市に調査活動の範囲を広げる。観光地として有名な所だけではなく、地域の行事を支える人や観光客を迎える市民の願いや思いに気付くことで、五感を使って名所やものについて調べた昨年とは違った視点から、より詳しくふるさとを見つめ直すことができる単元である。仙北地域の自然・文化・歴史・伝統、人々の取組などの素晴らしさを再発見することで、ふるさとに親しみ、誇りと愛着をもって暮らしていこうとする思いがさらに育つものと考えられる。

子どもたちは導入段階でPR活動とは、上級生からの情報や昨年度の活動から、「仙北市の『すてき』を初めて訪れる人に知らせること」「他県の人々が仙北市に来たいと思わせる作戦」そして「仙北市に住む人を元気にする活動」だと捉えている。素直に自分の思いを話そうとするが

「対話をしながら考えを高めていく力」や、「目的に応じて表現方法を工夫する力」が不足していることから、まず昨年度発見した田沢湖の「すてき」に加え、角館、西木の「すてき」(名所、名物、祭り、食)について、ウェブマップを使って調べることによって知名度や観光資源の数に地域差があることに気付かせる。さらに、観光客へのアンケート調査、駅前の市、駅、観光案内所、タクシー、羽後交通の人などへのインタビューを行い、結果を比較しながら相手を意識したPRの視点を考えていく活動を行う。

昨年度の学習では、体験を通して学んだことはこだわりをもち自分の言葉で伝えることができたことから、今年度もフィールドワークやゲストティーチャーとの出会いを取り入れながら、子どもたちが主体的に課題追究を進めていくことができるようにする。

また、子どもたちは先輩たちが行ってきた「あんべいいなチャーハン」の販売にも意欲的である。完売することがねらいではなく、自分たちが調査した仙北市のいいところを自分の言葉で生き生きと伝えることができれば、その思いが人々に届き仙北市に関心をもってもらえる、チャーハンの売り上げにも繋がっていくかもしれないという期待感をもたせる。

また、地域に出かけてのふるさとPR活動を2回行い、実際に観光PRをしながら自分たちのよかった点や改善点を見付けながら、秋のチャーハン販売に併せてよりよいPR活動を目指していく。活動の終末には、成果と課題を出し合いふるさとへの思いを膨らませ、今後の自分の生活にどのように生かして行くかを考える。

単元に関わる具体的な体験活動としては、ふるさとクリーンアップ(田沢湖スキー場)・しいたけの収穫・玉川ダム交流会・宿泊体験学習(駒ヶ岳登山・田沢湖でのカヌー体験等)・生保内節全国大会・仙北市以外の場所で行うあんべいいなチャーハン販売などの行事やイベントがある。また、仙北市の各地域で地域で観光に携わる仕事をしているゲストティーチャーとの出会い、角館・西木地区のフィールドワーク、あんべいいなチャーハンを作っているランドクリエイトへ収穫したしいたけを届ける活動、田沢湖駅前での調査活動、田沢湖駅前や湖畔でのPR活動などが考えられる。

(3) 指導に当たって

【本校の総合的な学習の時間のテーマ】

「ふるさとのよさがわかり、ふるさとが大好きな子ども」

【本校の総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、地域のひと・もの・ことに関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を以下のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域のひと・もの・ことに関する探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域の特徴やよさに気づき、それらが様々な人々の努力や工夫、願いによって支えられていることに気付く。
- (2) 地域のひと・もの・ことに関する中から課題を見付け、情報を集め、整理・分析して、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 地域のひと・もの・こととの関わりを通して、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの思いや願いを生かしながら、地域に対する誇りと愛情を高め、積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。

- ふるさとのよさに気付かせるために
 - ・観光客や地域の人々へのインタビューなど対話を通して、客観的にふるさとのよさを見つめ直す活動を取り入れる。
- ふるさとの発展に貢献する意欲や態度を育てるために

- ・単元を通して、地域で観光に携わっている方々と関わる活動を取り入れ、情報を得ながら、自分たちもPRに役立っているという思いをもたせていく。

○ 自分のよさに気付かせるために

- ・自己評価や総合評価を積み重ね、これまでの学びをふり返り自己理解を深める。

仙北市は、山、湖、文化財、伝統芸能などたくさんの観光資源に恵まれており、子どもたちは山、湖、建物など際立つものがあれば、観光客はそれをめあてに訪ねてくると感じている。単元の導入では、観光客で賑わう時期と普段のまち並みの様子を比べたり、仙北市の3つの地域の名所、行事、特産物などを挙げたウエビングマップから、知名度の高いものの数に大きな差があることに気付かせ、観光客は何を目的に仙北市を訪れているのかについて話し合い、実際に田沢湖駅や駅前物産館の市、タクシードライバーの人たち、旅館や店で働く家族へのインタビュー調査を行うことで実態を捉えさせる。

自分たちがふるさと自慢として伝えたいことと、観光客の思いを聞き取り比較する活動から課題を発見し、今後、自分たちがPRする事柄や、PR方法について考えさせる。角館地区は地区の一部に観光客が集中していることから、特産品、武家屋敷以外によいところ、観光活動や行事に携わる人々について眼を向けさせることによって去年の学びをさらに深める。

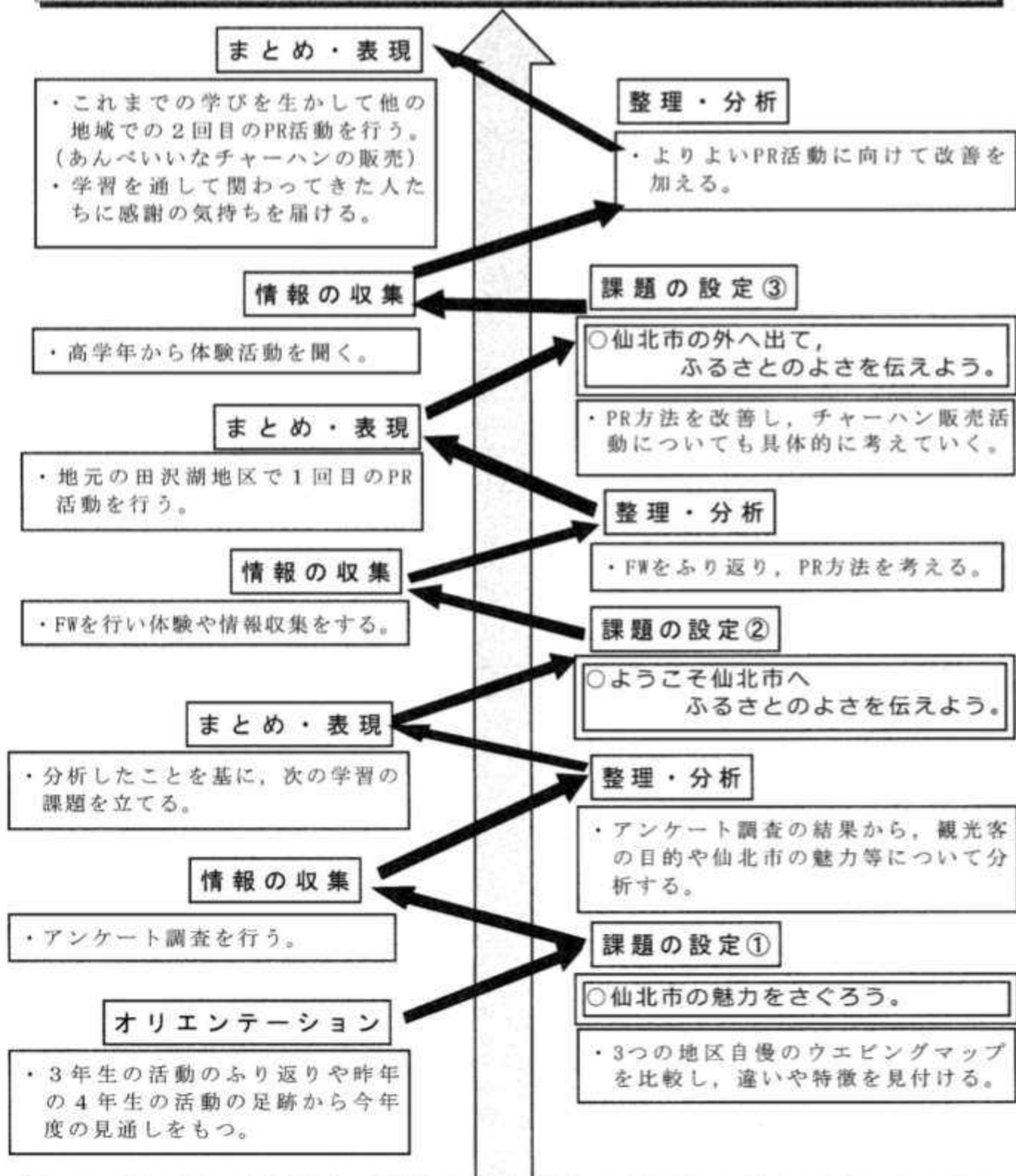
観光化され、パンフレット・インターネットで取り上げられているものは、すでに高い知名度があるのに対し、子どもたちが発見したものは来訪者数に結び付くとは限らないが、そこに携わる人の思いを聞き、一緒に活動する体験などを通して観光に携わる人々の思いに気付いていくと思われる。

4 単元の評価規準

| ア) 知識及び技能 | イ) 思考力・判断力・表現力等 | ウ) 学びに向かう力、人間性等 |
|--|---|--|
| ① 3つの地域を比較し、それぞれの特徴が分かっている。
② 情報を比較・分類し、課題に応じた結果をまとめている。
③ 調査活動を通して、地域のよさや特徴を再認識したことを、他地域に向けて発信することができる。
④ 自分たちの地域（仙北市）の自然・文化・歴史・伝統、人人の取組などの素晴らしさに気付いている。 | ① 活動を通して気付いたことや疑問点から課題を設定している。
② 目的に合わせて質問事項を考え進んで情報収集したり蓄積したりしている。
③ アンケート調査の結果を比較・分類し特徴を見付けている。
④ 分かったことや自分の思いを目的に応じてまとめている。
⑤ 発信方法を考え相手に分かりやすく伝えている。
⑥ 地域のよさを発信することにより、表現するために必要なことや人との関わり方が分かっている。 | ① 課題探究に向け、地域の人人に素直に関わり、意欲的に体験活動をしている。
② 相手の立場や思いを考え、地域の人々や友達と協力して課題解決している。
③ 自分や友達の考えのよさ、自分の物の見方や考え方に気付く。
④ アンケート調査や地域の人との関わりを通して自分と異なる考えがあることに気付く、相手の思いを理解している。
⑤ 進んでPR活動をしたり、人と関わる喜びや難しさを実感している。
⑥ 自分と地域のつながりに気付く、ふるさとに誇りと愛情をもっている。 |

5 単元構想図

多くの人々と関わり、ふるさとのよさをPRする活動に自分も貢献したことを実感している。また、地域活性化を願う人々の思いや活動も知り、仙北市全体をふるさとと捉え、愛情と誇りをもって、今後、自分ができることを考えている。



ふるさとが好きでPR活動に意欲をもっているが、仙北市全体の様子についての知識は浅く、客観的な見方はできていない。また、具体的なPR活動や発信方法を知らない。

6 指導計画 (40時間)

| 時数 | ○学習内容
・主な学習活動 | ・教師の支援 | 評価規準
【評価方法】 |
|-----|--|--|---|
| 1 | ○オリエンテーション
・昨年度の活動のふり返りや、昨年度の4年生の活動の足跡から今年度の活動の見通しをもつ。 | ・これまでの先輩たちは4年生でどんな活動をしてきたか、昨年度の資料を掲示する。 | ア-①
【行動観察】 |
| 2 | ○仙北市の3つの地区の特徴をつかむことができる。 | ・3年生でまとめたファイルを参考資料として生かす。 | ア-①
【行動観察 |
| 3 | ・「3つの地区自慢」のウエビングマップを作成し、比較しながら、それぞれの地域の特徴や違いを見付ける。 | ・情報量が少ない子どもには、パンフレットを準備する。
・地域によって知名度の高いものの数や事柄に差があることを確認する。 | ・シート】
ア-②
【行動観察
・シート】 |
| 4 | ○仙北市を訪れる観光客の意識と自分たちのふるさと自慢を比較調査し課題を設定する。 | ・昨年秋の観光シーズンの探検やGW中の桜の季節と、今現在の来県者数の違いを押さえる。
・自分たちの地域自慢とし、観光客の目的を比較できるような視点を明確にする。
・国語の学習を生かし、事前にアンケート調査の練習を行う。
・観光客の他に、田沢湖駅、駅前市の市、生保内ハイヤー、羽後交通など観光に携わる人たちからも情報をもらい多角的に観光情報を得られるようにする。 | イー②
【シート・
・発言】
イー③
【シート
・発言】
ウ-①②④
【行動観察
・シート】
ア-②
【シート
・発言】 |
| 10 | 仙北市の魅力をさぐろう。
・アンケートの項目を決める。
・アンケート対象を決める。
・調査計画を立てる。
・アンケート調査を行う。
・アンケートの整理・ふり返りをする。 | ・アンケート結果を分析し、気付いたことを中心に情報交換する。
・情報交換を基にこれからの学習で調べていきたい課題を考える。 | イー①
【シート】 |
| 本時⑩ | ・アンケート調査を分析し、これからの学習の課題を考える。 | | |
| 11 | ○仙北市に来てくれた人々に自分が伝えたいふるさとの魅力を伝えることができる。 | ・アンケートの分析結果から明らかになってきた事柄を生かし、課題設定や学習計画につなげる。
☆支援を必要とする子どもは、関心のある事項を丁寧に聞き取り、班分けをする。
・3年生での学習を生かし、仙北市へ調査を広げるため角館・西木地区に人・ものとの出合いを広げる計画になるようにする。
・みんなでPRすることの他に、自分たちのこだわりの魅力を調べさせる。
・調査内容、質問事項など整合し、シートを作成させる。 | イー②
【シート
・発言】
ウ-③
【行動観察
・発言】 |
| 16 | ようこそ仙北市へ！
ふるさとのよさを伝えよう。
・課題追究のためフィールドワークを計画する。
・調査対象を決め、連絡する。
・交通手段を調べる。
・調査項目を決める。
・中間発表会を行い、互いの班の動きを確認をする。
・調査計画シートを完成する。 | | |

| | | | |
|------------------------|--|--|---|
| <p>17
↳
25</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの計画に従って調査活動を行う。 これまで観光パンフレットでは見つけられなかった「人の思い」や「取り組み」について情報を集める。 情報をシートにまとめる。 効果的なPR方法を話し合う。
例 ポスター・新聞掲載
試食コーナー・案内地図 PRの準備を進める。 田沢湖地区で一回目のPR活動を行う。 PR活動のふり返しをして、よかった点や改善点を話し合い、まとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 移動時の安全のため、生小応援団の協力を仰ぐ。 見学先へ事前に計画書を送付し取り組みや、ふるさとへの思い願いについて話してもらえよう依頼する。 まとめ用シートを準備する。 PR方法については、先輩たちのこれまでの取り組みを参考にしながら話し合わせる。 子どもの力では困難な場合は、地域の方々に協力を仰ぎ、できる範囲での取り組みにする。 アンケートでの調査結果を生かし、相手が知りたい情報や思いを聞きながら紹介できるよう声かけをする。 自分たちの伝え方と観光客の反応を合わせながらふり返る。 | <p>ウー①②
【行動観察】</p> <p>イー②④
【シート】</p> <p>ウー④⑤
【シート・行動観察・発言】</p> <p>アー④
イー⑤⑥
【行動観察・シート】</p> |
| <p>26
↳
40</p> | <p>○これまでの学びを生かし他の地域に出て仙北市の魅力伝えることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>仙北市の外へ出て
ふるさとのよさを伝えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 高学年から体験活動を聞く。 一回目のPR活動の経験を生かし課題設定し、活動計画を立てる。 PRの仕方でもよかった点・改善点について話し合う。 「あんべいいなチャーハン」について調べ、紹介の仕方と考える。 チャーハンの販売の仕方について確認する。 チャーハンの販売も加えたPR活動の準備を進める。 〇〇市でのPR活動を行う。
*今のところ未定 相手の思いを聞きながら、ふるさとのよさを伝えることができたかふり返りをする。 単元を通して関わってきた人たちに感謝の気持ちを伝えるとともに、活動報告を行う。 ふるさとに誇りをもち、さらによさを広げるために自分ができることを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 場所が変わることにより、伝え方が変わるところを確認する。 今まで協力して下さった観光の仕事に携わっている方々に見てもらい、アドバイスをもらう。 事前に地域の方々と打ち合わせの時間を設け販売の際、心がけることについて学ぶ。 初めての場所なので、約束を確認し、安全面に注意する。 全員がPR活動の意識を持って活動できるよう販売・PR・アンケートなど仕事を明確にし交代で活動させる。 ☆支援を必要とする子どもはリーダーを動きの手本とし、ペアで活動できるようにする。 活動中の会話からも仙北市へ対する意識を聞かせる。 単元を通してお世話になった地元の方々と一緒に報告会を開き活動の達成感と、ふるさとへの誇りを味わえるようなふり返りの場を工夫する。 これまでの学習を生かし、児童会主催の被災地への義援金を送る活動の一つとして、4年生が学んだふるさと仙北市の紹介も加えることの提案につなげる。 | <p>イー①
【シート・発言】</p> <p>イー⑤
【行動観察・発言】</p> <p>アー③
【行動観察】</p> <p>ウー⑤
【発言・シート】</p> <p>アー④
【シート・発言】</p> <p>ウー⑤
【シート】</p> |

7 本時の実際 (10/40)

(1) ねらい

グループで行った観光アンケート調査を分析し、観光客が求める「仙北市の魅力」について話し合い、これからの学習の課題を考えることができる。

(2) 学習の実際

| 段階 | 学習活動 | 予想される子どもの姿 | 形態 | 教師の支援 |
|-----|--|--|--------------|--|
| 導入 | 1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 | ・仙北市のよさを発信するために、調べたり、話し合ったりしてきた。 | 全体 | ○教師の支援
●つまづいている子への手立て
☆評価(方法)【観点】
○学習の見通しがもてるように、これまでの流れが確認できる場をいぬわしルームに常設する。 |
| | (めあて)
アンケートの結果から、仙北市の新しい「おもてなし」を見付けよう。 | | | |
| 展開 | 2 グループごとに調査を分析する。
①観光客グループ
②観光案内所グループ
③生保内ハイヤーグループ
④物産館市・店グループ | ・やっぱり田沢湖が一番だ。
・観光客によって見たいものが違うんだな。
・西木は目立つものがないから、知られていないのかな。
・店の人も観光客との会話から情報を持ってるんだな。
・人気のおみやげは何だろう。 | グループ | ○話し合いをスムーズに進めるために、分析の視点を確認する。
○分析がしやすいように、予めアンケートの答えを種類別に付箋に書かせておく。

○分類整理しながら課題に気付くことができるよう、話し合いでのつぶやきを拾い上げる。
○グループのリーダーには、分析は全員の意見を聞くことの大切さを事前に指導しておく。 |
| | 3 分析して気付いたことをグループごとに発表する。 | ・1回目的人是ほとんど田沢湖を見に来てる。
・田沢湖の次は角館に行く人が多いな。
・観光客が知りたい情報の1位は○○だ。 | 全体 | ○発表は特に伝えたいことを中心に、いくつかの例や根拠を示しながら、話してもよいことを確認する。 |
| | 4 発表を基に調べてみたい新しい「おもてなし」を考える。 | ・西木のことを調べてみよう。
・なぜ温泉が人気が高いのだろう。
・他にも薦めたいことがたくさんあるな。
・西木地域にも人が訪ねていく作戦はないかな。 | 個
↓
全体 | ○昨年度の学習も想起させ、生保内地域だけでなく、仙北市全体に目を向けることができるようにする。
☆アンケート調査の分析等を基に、これからの学習の課題を考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】
(シート) |
| まとめ | 5 本時の振り返りをして次時への見通しをもつ。 | ・観光の目的は多様にあるんだな。
・調べたいことが決まった。
・しっかり調べて自信をもってPRしたい。
・仙北市にはいっぱいおもてなしがある。
・3つの地域すべてにいいところがあるはずだ。 | 個 | ○活動の意欲が高まるように、子どもたちの頑張りを称賛する。
○次時は自分が決めた課題を確認し、調べ学習を進めて行くことを確認する。
○地元の人の思いに触れるため、仙北市の「ふるさとCM」を紹介する。 |

3 校 時

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 T I
T y

1 単元名

ふるさと再発見 パートI

2 単元の目標

仙北市（ふるさと）を仙台市（都市）と比較しながら調査し、得られた結果を基に考察したり討論したりする活動を通して、単元の課題を見出し、その課題を解決するための知識や技能を身に付けるとともに、ふるさとに対する考えを見つめ直し、発展を目指して積極的に地域に関わろうとする態度を育てる。

3 単元を展開するに当たって

(1) 子どもについて（男子21名・女子26名、計47名）

子どもは、総合的な学習の時間のテーマ「ふるさとのよさがわかり、ふるさとが大好きな子ども」の下、3年生からふるさと仙北市についての学びを積み重ねてきた。

3年生では、「すてき発見、田沢湖！」を学年テーマとし、田沢湖でのフィールドワークなどを通して身近な地域のよさを調べる活動を行った。4年生では、調査範囲を田沢湖生保内地区全域に広げ、「ふるさとの自然を見つめて」を学年テーマとして調査活動を行った。発展となる「発信しよう ふるさとのよいところ」では、これまで追究してきた地域のよさを広く発信しようと、秋田市で宣伝活動を行った。5年生では、「お米探検隊」という学年テーマを設定し、社会科「わたしたちの生活と食料生産」と関連させながら、地域農家の工夫や努力について調査した。米作り体験を行うことで収穫の喜びを実感することができたが、地域の農業問題にも気付き、ふるさとの抱える課題へ意識が向くきっかけとなった。「わたしたちの山駒ヶ岳」では地域の自然災害について課題をもち、秋田駒ヶ岳砂防探検隊への参加を通して防災の在り方を追究した。

こうした学びを通して、子どもはふるさとのよさを知り、ふるさとの発展のためにできることをしていこうという意欲が高まってきている。しかし、仙北市についての理解は表面的な部分にとどまっており、地域には「人口減少」といった課題があることに気付いてはいるが、その要因や地域に及ぼす影響等を捉えるまでには至っていない。

(2) 単元について

6年生は、総合的な学習の時間の小学校におけるゴールとなる学年である。そこで本単元は、これまでの学習を振り返る活動からスタートし、ふるさととどのように関わってきたかを確認する。そして、前学年までの課題解決を踏まえた上で、ふるさとの発展のためにどのような活動をしていったらよいか考え、今年度の課題づくりを進めていく。ここには、仙北市と仙台市との比較によって得られた、「ふるさとにはどのような特徴があるのだろう」という新たな視点が入ってくる。子どもはこれまで「自分たちが見つけたふるさとのよさを、観光客等の地域外へどのように発信していくか」を考えてきたが、本単元では地域の実態を掘り下げ、よさだけではなく地域が抱える問題点にも目を向けていくことになる。そうすることで「地域には、まだまだ知らないことがたくさんある。」「地域の実態をもっと調べていこう。」というように課題意識を発展させていく。このように本単元は、6年生の全単元を貫く「ふるさと再発見」というテーマを、子ども一人一人が自らのものとして捉える時間となる。

(3) 指導に当たって

【本校の総合的な学習の時間のテーマ】

「ふるさとのよさがわかり、ふるさとが大好きな子ども」

【本校の総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、地域のひと・もの・ことに関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を以下のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域のひと・もの・ことに関する探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域の特徴やよさに気付き、それらが様々な人々の努力や工夫、願いによって支えられていることに気付く。

- (2) 地域のひと・もの・ことに関する中から課題を見付け、情報を集め、整理・分析して、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 地域のひと・もの・こととの関わりを通して、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの思いや願いを生かしながら、地域に対する誇りと愛情を高め、積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。

- ふるさとのよさに気付かせるために
- ・「仙台市のまちづくりから学び、ふるさとの発展に生かす」という目的意識を明確にもって、修学旅行の計画を立てる活動を行う。
 - ・仙北市をより深く見つめるために、仙台市と比較しながら調査したりまとめたりする活動を行う。
- ふるさとの発展に貢献する意欲や態度を育てるために
- ・ふるさとと自分との関わりに目を向けていくことができるように、「仙北市と仙台市、どちらで暮らす方が幸せか」という議題で話し合いを行う。
- 自分のよさに気付かせるために
- ・考えの深まりや成長を自分自身で確かめることができるように、書く活動を効果的に取り入れ、学びの足跡を蓄積していく。

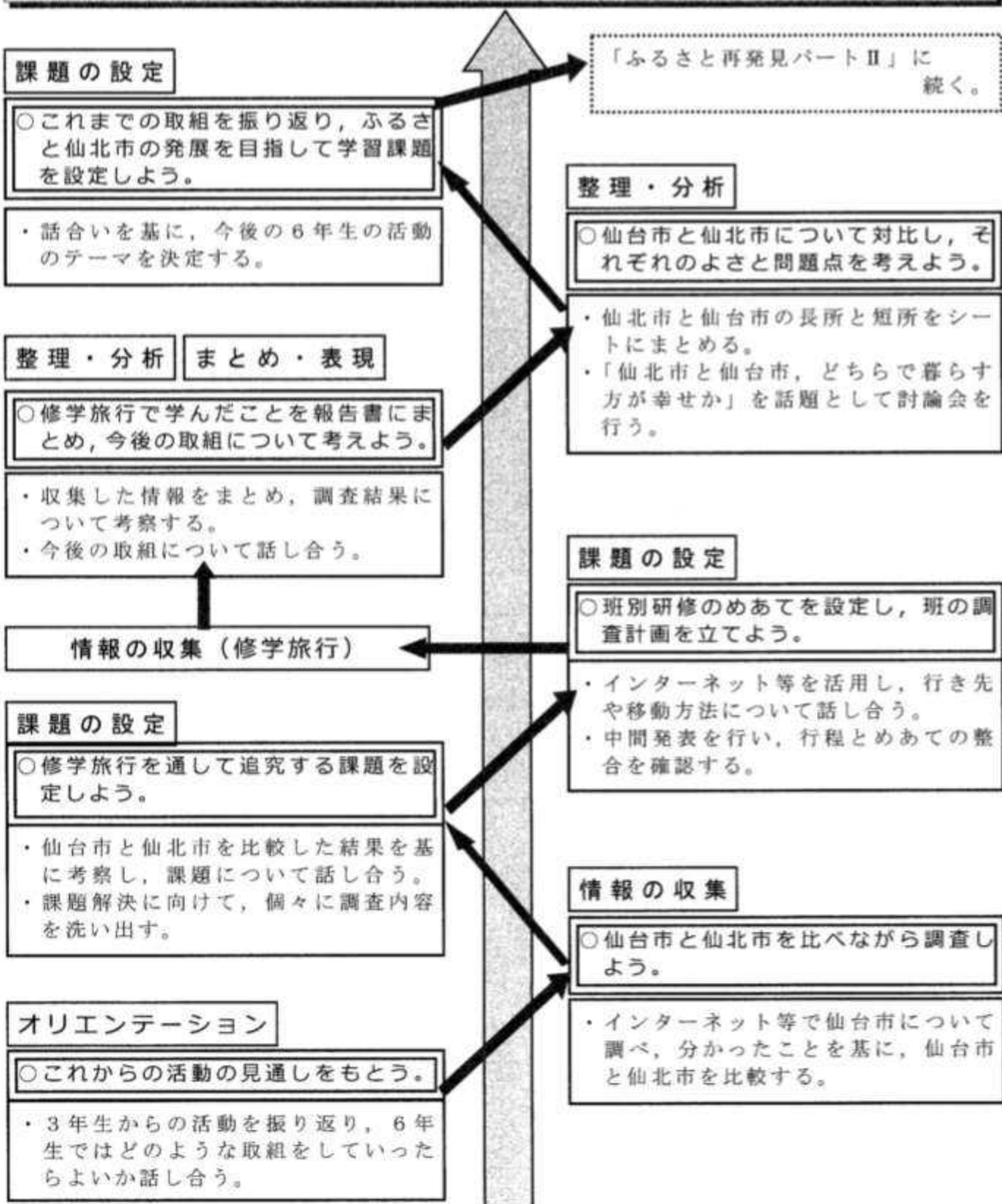
単元の構成としては、はじめに全体でこれまでの取組を振り返り、今後の6年生の取組について話し合う。この段階では、まだ新たな知識の獲得がないため、子どもは発想を広げることができないと予想される。そこで、修学旅行で仙台市を訪問することから、まず、「仙台市のまちづくりから学び、ふるさとの発展に生かそう」という課題を設定し、仙台市と仙北市を比較しながら調査活動を進める。旅行後には、「仙台市と仙北市の共通点や相違点」「仙台市のまちづくりから学んだことを、仙北市の発展のためにどのように生かすか。」「仙北市の発展のために自分が取り組んでいきたいこと」等を視点として報告書作りを行う。並行して、国語科の学習と関連させながら、「仙北市と仙台市、どちらで暮らす方が幸せか。」を議題として討論会を行う。話し合い後に仙台市と仙北市に対する自分たちの意識を振り返るとき、子どもは、「仙台市の方が幸せだ。」という判断について、「だから仙北市は人口減少が進むのか。今後仙北市はどうなっていくのか。」という思いをもつであろう。一方で、「仙北市のほうが幸せだ。」という判断に対しては、「仙北市を好きな人が多くてうれしいが、ではなぜ多くの人が仙北市を離れるのだろうか。」という思いをもつであろう。子どもはこれらの活動を通して、「もう知っている」と捉えていた地域には、まだまだ知らないことが多くあることに気付いていく。さらに、地域が抱える問題点に向き合うことで、子どもはこれまで自分がもっていた「地域に対する誇りや愛着」といった意識を改めて見つめ直すことになる。

4 単元の評価規準

| ア) 知識及び技能 | イ) 思考力・判断力・表現力等 | ウ) 学びに向かう力、人間性等 |
|--|---|--|
| ①自分たちの地域（仙北市）のよさと問題点に気付いている。
②情報を整理し、課題に対応するように結果をまとめている。
③結果を基に、関連付けたり、比較したりしながら考察している。 | ①地域の実態を様々な視点から捉え、調査活動等を通して得られた気づきや疑問を基にして課題を設定している。
②対象や目的に合わせて調べる方法を選択し、情報を収集したり蓄積したりしている。
③集めた情報を整理し、関連付けたり、多面的に考察したりするなど、分析を通して特徴を見付けている。
④分かったことや学んだこと、自分の思いや考えを、相手や目的に応じて分かりやすくまとめたり伝えたりしている。 | ①課題解決に向けて、体験や活動対象に主体的に関わっている。
②異なる意見や他者を受け入れながら、他者と協力して課題を解決している。
③自分や友達のよさや違いに気づき、自分のものの見方や考え方を深めている。
④自分と異なる意見や考えを大切にするなど、相手の立場を理解している。 |

5 単元構想図

地域には、まだ捉えきることができていない「よさ」や「問題点」があることに気付き、より深く地域を見つめていこうとする意欲が高まってきている。



3年生からふるさとについての学びを積み重ね、学年が進むにつれ、ふるさとのよさを知り、発展のためにできることをしていこうという意欲が高まってきている。しかし、人口減少といった地域が抱える課題についての捉えは、十分とはいえない。

6 指導計画 (20時間)

| 時
数 | ○ねらい
・主な学習活動 | ・教師の支援 | 評価規準
【評価方法】 |
|---------|--|--|---|
| 1 | ○これからの学習の見通しをもつことができる。
・総合的な学習の時間に、どのような活動を行ってきたか振り返る。
・6年生では、どのような取組をしていったらよいか話し合う。 | ・3年生から5年生までの活動を表にまとめて提示する。
・表は、これまでの活動の流れが分かるように構成を工夫し、6年生の活動へと意識が向いていくようにする。 | ア-①
【行動観察】 |
| 2
4 | ○仙台市と仙北市を比べながら調査することができる。
・インターネットで仙台市について調べる。
・分かったことを基に、仙台市と仙北市を比較する。 | ・仙台市について自由に調べる中で、子どもの発言を取り上げながら視点を提示していく。(人口密度、観光スポット、行事など) | イ-②
【シート
・発言】 |
| 5
7 | ○修学旅行を通して追究する課題を設定することができる。
・仙台市と仙北市を比較した結果を基に考察する。
・考察内容について話し合い、課題を設定する。
・課題解決に向けて、個々に調査内容を洗い出す。
(見たい・聞きたい・調べたい) | ・子どもの発言を分類整理しながら取り上げ、全体の課題づくりを行う。(「仙台市のまちづくりから学び、ふるさとの発展に生かそう」)
・調査内容を整理し、個の課題を明確に設定することができるように、思考ツールを活用する。 | イ-①
ア-③
【シート
・発言】 |
| 8
11 | ○班別研修のめあてを設定し、班の調査計画を立てることができる。
・インターネットや地図、ガイドブックなどを活用し、行き先や移動方法について話し合う。
・全体で中間発表を行い、行程とめあての整合を確認する。
・班ごとに計画書を作成する。 | ・課題の解決を目指して、見通しをもって計画を立てていくことができるように、計画書の構成を工夫する。 | イ-②
ウ-①
ウ-②
ウ-④
【計画書
・発言・
行動観察】 |
| | ○修学旅行 | ・公共のルールや安全についての確認は、学級活動で行う。
・実際の調査活動は、学校行事として行う。 | |

| 時
数 | ○ねらい
・主な学習活動 | ・教師の支援 | 評価規準
【評価方法】 |
|---------------|--|---|-------------------------------------|
| 12
5
16 | <p>○修学旅行を通して学んだことを報告書にまとめ、学習課題と照らし合わせて考察したり、今後の取組について考えたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報を文章でまとめる。 ・調査結果について考察する。 ・考察内容や今後の取組について話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に迫ることができるように、次のような観点を示すようにする。 * 仙台市の発展の様子 * 仙台市と仙北市の共通点、相違点 * 仙台市のよさを仙北市のまちづくりにどのように生かしていくか * 仙北市の発展のためにわたしたちにできることは何か | アー②
イー③
イー④
【報告書】 |
| 17
5
19 | <p>○仙台市と仙北市について対比しながら話し合い、それぞれのよさと問題点をさらに掘り下げることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙北市と仙台市の長所と短所を洗い出しシートにまとめる。 ・「仙北市と仙台市、どちらで暮らす方が幸せか」を話題として討論会を行う。 ・討論会を振り返り、学習感想をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市、仙北市それぞれに対する意識を深め、再認識していくことができるように、国語科「学級討論会をしよう」で獲得した学びを活用して意見交流を行う。 | イー③
ウー③
【シート
・発言・
行動観察】 |
| 20 | <p>○これまでの取組を振り返り、ふるさと仙北市の発展を目指して学習課題を設定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論会の学習感想を交流する。 ・話し合いを基に、6年生の活動のテーマを決定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少といった地域が抱える問題と関連付けながら感想交流を行うことで、地域を見つめ直す必要性に気づき、活動テーマ「ふるさと再発見」を自らの課題として捉えることができるようにする。 | イー①
【シート
・発言】 |

7 本時の実際 (19/20)

(1) ねらい

仙北市と仙台市について比較し話し合う活動を通して、様々な視点からそれぞれの市の幸福度について考え、根拠を明確にしながら自分の立場を決めることができる。

(2) 学習の実際


| 段階 | 学習活動 | 予想される子どもの姿 | 形態 | 教師の支援
●つまづいている子への手立て
☆評価(方法)【観点】 |
|---|--|---|------------------|---|
| 導入 | 1 どちらで暮らす方が幸せか、現時点での自分の思いを確認する。

(めあて) | ・仙台市の方が幸せだと思ふ。
・仙北市の方が多いな。 | 全体 | ○前時までに自分の立場を決め、黒板にネームプレートを貼ることで、他者の考えも把握できるようにする。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 討論会を通して、仙台市と仙北市をもっと深く見つめよう。
 (話題) ~仙北市と仙台市、どちらで暮らす方が幸せか~ </div> | | | | |
| 展開 | 2 グループを作り、一人一人が自分の立場とその理由を発表する。
・グループ人数：4～5人

↓
質問したり、他者の考えに対する意見を述べたりしながら、自他の立場を確認する。 | ・仙台市の方が幸せ。遊園地など、楽しい施設がたくさんある。
・仙北市の方が幸せだと思ふ。自然がたくさんあるから。

・仙台市にも、自然はたくさんあるのでは。
・施設が多いから幸せとはいえないのではないかな。 | グループ

グループ | ○全員が自分の考えをもって話し合いに参加することができるように、前時までに長所や短所を洗い出す活動を行う。
○自分の立場を明確にして考えを進めていくことができるように、シートの構成を工夫する。
○Tf・Tyで分担してグループの活動状況を見取り、話し合いが活発に行われるように助言する。
●勝敗にこだわりすぎるときには、「両市を深く見つめる」という活動の目的に立ち返らせるようにする。 |
| | 3 グループの話し合いの結果を紹介し合う。 | ・ぼくたちのグループは、「仙北市が幸せだ」という意見が多かったです。理由は・・・。
・仙台市と仙北市に意見が分かれました。 | 全体 | ○結果を整理して発表したり、目的意識をもって聞いたりすることができるように、まとめの視点を提示する。
・どちらを幸せと捉えたか
・理由としてどのようなことがあげられたか |
| | 4 話し合いを通して、自分の思いがどのように変容したか確かめ、ネームプレートで示す。 | ・友達の考えを聞いて、自分の考えが変わった。
・自分はやっぱり仙北市だけど、みんなはどうかな。 | 全体 | ○視点が多様になるほど判断が難しくなることから、二者択一ではなく、下記のような図を提示し、ネームプレートを貼らせる。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto;"> 幸せ 仙台市 仙北市 幸せ
  </div> |
| まとめ | 5 本時の振り返りをシートにまとめる。 | ・今まで気付いていなかった仙北市のよさが分かった。
・仙北市の問題点をもっと調べていきたい。 | 個人 | ○意識の変容や深まりを捉えることができるように、振り返りの視点を提示する。
☆様々な視点からそれぞれの市の幸福度について考えている。
☆根拠を明確にしながら自分の立場を決めている。
【思考力・判断力・表現力等】
(発言・シート) |